長崎医療センター
NAGASAKI MEDICAL CENTER NEWS

専齋 SENSAI

2023 DECEMBER VOL.419

発行所
独立行政法人国立病院機構
長崎医療センター
〒856-8562
長崎県大村市久原2丁目1001-1
TEL 0957-52-3121
FAX 0957-54-0292



当院にダヴィンチがやってきました！

ダヴィンチがやってきた!

医長紹介
呼吸器外科医長　朝重 耕一

明日を担う Vol.22
・馬場 愛、溝口 愛美、大工園 紫乃（診療情報管理室）

TOPICS
・瑞宝中綬章
・カザフスタン心臓病内科学研究所からの訪問団が来訪されました。
・剖検等御協力者慰霊祭
・APSR 2023でYoung Investigator Award（YIA）受賞
・令和5年度長崎医療センター忘年会

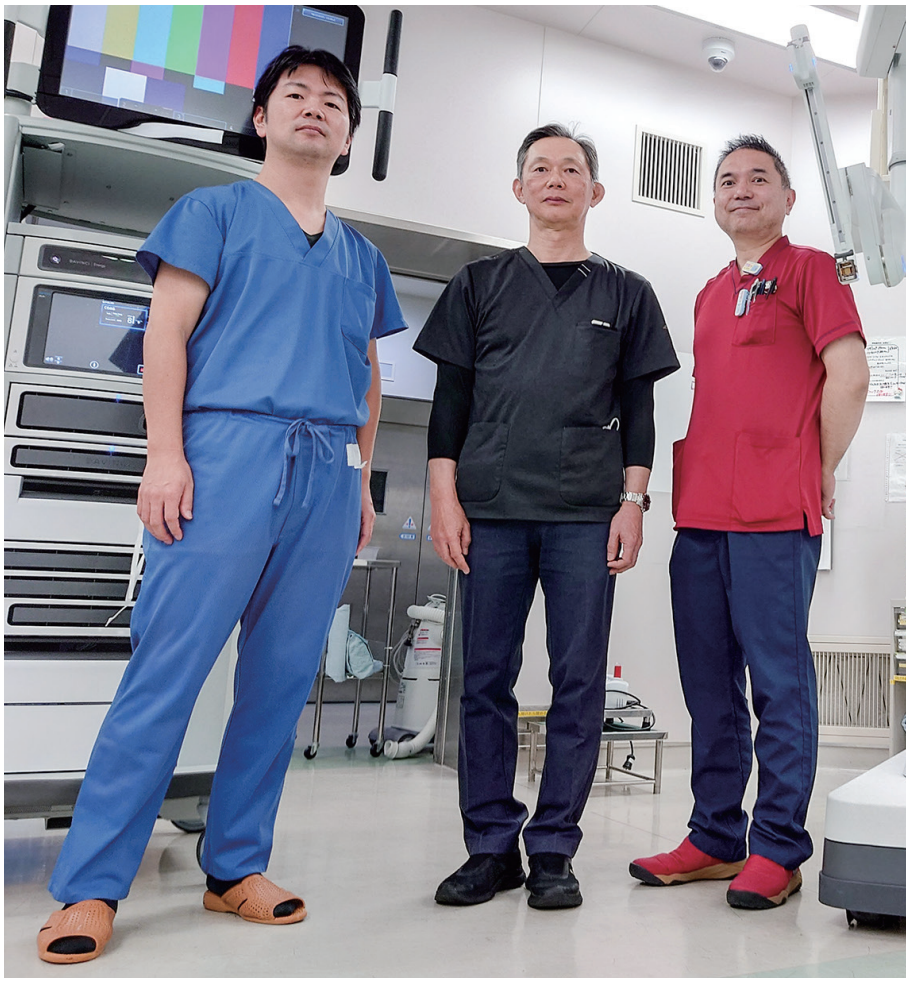
人生100年時代の予防医療
第6回　高尿酸血症
侮れない尿酸！

院内さるく Vol.12 臨床工学室

院長コラム Vol.7

外来診療担当医一覧

長與 專齋（1838年～1902年）
大村藩御殿医の家系に生まれる。緒方洪庵の適塾に学び、福澤諭吉の後を襲い塾頭となる。初代衛生局長として我が国の近代医療制度の確立に尽力した。衛生という言葉をはじめて採用したのも專齋である。專齋の生家は「宜雨宜晴亭」と呼ばれ、長崎医療センター敷地内に移築されている。



ダヴィンチがやってきた

左より
泌尿器科
岩田 隆寿 医長
錦戸 雅春 部長
大仁田 亨 医長



このたび、長崎医療センターでも、手術支援ロボット「ダヴィンチXi」が導入されることになり、2023年11月10日、ついに念願のダヴィンチXi実機が搬入されました。

あらゆる領域において、手術は医師の技術、医療機器の進歩により、低侵襲でより質の高いものへと年々進化を遂げています。進化した医療機器の代表的なものの一つとして“手術支援ロボット”があります。

従来から低侵襲手術として行われている鏡視下手術（腹腔鏡手術、胸腔鏡手術）に、ロボットの機能を組み合わせることで、鏡視下手術では困難であった角度からのアプローチ、手ぶれのない緻密な操作ができ、また精細な3Dモニターでこれまではよく見えなかった微細な構造を視認しながら手術ができるなど、より高度な手技が可能になります。術者はサージョンコンソールと呼ばれる機械に座り、遠隔操作によって手術が行われますので、これまでのように医師が無理な体勢を強いられたままで手術を行ったり、長時間立ったまま手術を行うことがなくなり、患者さんへの侵襲軽減のみならず、術者の身体的負担も軽減できることも特徴の一つです。昨今泌尿器科、胸部外科、腹部外科、産婦人科などの領域において急速にこのロボット支援手術が普及しています。





前立腺がんにダヴィンチで挑む

優秀な機器とはいえ、ロボットがすべて手術を行ってくれるというわけではなく、操作するのは我々人間です。術者はこれまで鏡視下手術、開腹手術等で培ってきた知識、技術を生かしながらこのロボットを自由自在に操ることにより、さらに質の高い手術ができるよう日々トレーニングを積んでいます。精密な機器であるためセッティング、メンテナンスには臨床工学技士が、患者のケア、周辺機材や手術室全体の環境調整には看護師が、手術中の全身管理には麻酔科医が関わり、これらすべてがうまく機能することにより質の高い手術が成立します。

術者、麻酔科医、看護師、臨床工学技士でチームを結成し、12月からの本格稼働にむけ、様々な場面を想定したシミュレーションを行っています。泌尿器科における前立腺がんに対する前立腺全摘除術を皮切りに、その後徐々に適応疾患、領域を広げていく予定です。





呼吸器外科医長　朝重（ともしげ）　耕一（こういち）



神は細部に宿る。

呼吸器外科の朝重耕一と申します。2023年の8月に長崎大学より赴任しました。

呼吸器外科の守備範囲は主に胸部（心大血管や乳腺以外）です。対象となる疾患として最も多いのは肺癌で、その他に転移性肺腫瘍、気胸、膿胸や縦隔腫瘍などが主な治療対象です。

近年の外科領域での大きな進歩の一つにロボット支援下手術があります。全国的にここ数年で飛躍的に手術症例数が伸びており、長崎県内にも長崎大学をはじめ、複数の病院に手術支援ロボットが導入されています。ロボット手術の利点として傷が小さく痛みが軽度で、手術後の回復が早く、また手術中の出血量も少ないなどが挙げられ、患者さんが享受するメリットも多いと考えます。長崎医療センターでも2023年12月から手術支援ロボットが稼働しはじめます。私は前任地ではロボット支援下の肺切除術を行ってきました。長崎医療センター呼吸器外科では肺癌や縦隔腫瘍の患者さんに対し、これまでの胸腔鏡を用いた低侵襲手術に加え、今後はロボット支援下手術も行いたいと考えています。よろしくお願いいたします。



手術支援ロボットを操作している場面


ロザ・モタ杯おおむらロードレースには毎年参加しています。写真は息子との親子レース。

明日を担う

Vol.22

当院の“明日を担う”スタッフに、
work、life、そしてvisionを語ってもらいましょう。



診療情報管理室

馬場（ばば） 愛（あい）、溝口（みぞぐち） 愛美（まなみ）、大工園（だいくぞの） 紫乃（しの）

Q：診療情報管理士とはどのような資格ですか。
A：診療録（カルテ）などに記載されている診療情報の管理・分析・活用をする業務です。カルテやデータをしっかり管理することで、医療の安全や質の向上、病院の経営管理を支える役割をしています。

Q：診療情報管理室ではどのような仕事をされていますか？
A：仕事は大きく3つに分かれます。
①DPCチェック・提出：患者さんの入院費に関するデータ（DPC）を決定するための病名を、国際疾病分類（ICD-10）に準じて確認し、厚労省へ提出。
②がん登録：地域がん診療連携拠点病院として、毎年約1,500件のがん患者の情報を登録。
③文書管理：入院診療計画書やカルテに取込された全ての文書の監査を実施。
他にも退院サマリー受取業務や作成率等の算出、診療録（カルテ）監査、病院経営のための資料作成、統計依頼、カルテ庫管理、紙カルテ貸出依頼の対応など。





Q：仕事で大切にされていることは何ですか？
A：様々な部署や職種と円滑に作業を進めることができるよう、細かく確認をとるなど、丁寧なコミュニケーションを意識しています。初心を忘れず、感謝の心を持って行動するようにしています。

Q：オフの日の過ごし方を教えてください。
A：座った仕事が多いので、休みの日は野岳湖や森園公園などをウォーキングしリフレッシュしています。

Q：今後の目標を教えてください。
A：診療情報管理士の仕事は、医療の高度化・複雑化に伴って、今後ますます期待が高まる職業だと認識しています。だからこそ高い向上心を持ち続け、長くこの職場で働いていきたいと思っています。

瑞宝中受賞

長崎医療センター 名誉院長 米倉 正大



この度、令和5年秋の叙勲を賜ることができました。11月10日の午前中に、内閣総理大臣より瑞宝中受賞の授与があり、午後から皇居・豊明殿で天皇陛下の拝謁があり、厳かの中で式は執り行われました。身に余る栄誉なことと受け止めております。

振り返りますと、1971年医師になり、その後、2002年に長崎医療センターの院長になるまでの約30年間、脳神経外科医として仕事をしてきました。1971年当時の横内寛院長に誘われて、国立大村病院で第一回の研修医としてスタートしました。その時に、寺本成美先生に最初の脳神経外科医としての手ほどきを受けた後、1973年から1980年までの7年間は、長崎大学脳神経外科にお世話になり、それ以外は長崎医療センターで脳神経外科医として仕事をしてきました。1981年から2年間は米国ロマリンダ脳神経外科に留学させてもらい、脳卒中外科を中心に、くも膜下出血患者さんや脳梗塞患者さんの血管吻合に力を入れてきました。この間多くの看護師さんやその他の職員の方々には並々ならぬお世話になりました。いい先輩や後輩に恵まれ、充実した脳外科医を過ごすことができました。2002年、矢野右人前院長に推薦され、55歳で長崎医療センターの院長を拝命しました。350億をかけた超近代的な大病院を運営していくのは、かなりの重荷ではありましたが、ここでも、多くの後輩に支えられ、特に私の一番近くにいた石橋研究センター長、向原茂明副院長、古賀満診療部長、宮下光世副院長、中原賢一副院長のほか歴代の事務部長と看護部長には、迷惑をかけながら支えてもらった院長職でした。特に最後の4年間は矢崎義男理事長に九州担当理事の仕事を命じられ、中原副院長には言葉には言い表せないくらい助けてもらいました。私が退職した後の長崎医療センターは、江﨑宏典院長、八橋弘院長に引き継がれ、長崎医療センターは地域の拠点病院として立派にその役割を果たしており、誇らしく思っています。

私は院長を退職してからは、矢野右人先生が立ち上げられた長崎県の離島とへき地の医療を提供する長崎県病院企業団に企業長として迎えられ、12年間その職を務めてきました。今、77歳の喜寿を迎え多くの先輩や後輩に支えながらの幸せな30年間の脳神経外科医と22年間の管理者の人生であったとしみじみ感じています。最後に、近くで陰ながら支えてくれた私の家内と家族に感謝するとともに、丈夫な体に生んでくれた両親にも感謝しています。

TOPICS

カザフスタン心臓病内科学研究所からの訪問団が来訪されました。

臨床研究センター 難治性疾患研究部長/国際医療協力室長　小森 敦正

去る11月21日に、カザフスタン国立医科大学付属心臓病内科学研究所（アルマティ市）所長マラットパシモフ博士、同副所長ジャミラ カイブラエヴァ博士、カザフスタン共和国健康保険基金副管理者イリヤ ムクハーマン医師からなる訪問団が来訪され、同研究所と長崎医療センター間の医学学術交流に関する協定締結式が行われました。



同研究所との交流は2007年4月に遡ります。以来国立医科大学からも含め、延べ人数27人の医師受け入れを行ってきました。当院からも二年次初期研修医が2名当地を訪問し、短期研修を行った経緯があります。COVID-19 pandemic により2020年から交流が途絶えていましたが、いよいよ対面での協力が再開可能となります。激動する世界情勢ではありますが、私たちには中央アジアの医療を経験する機会も与えられています。



TOPICS

剖検等御協力者慰霊祭

病理診断科長　三浦 史郎

令和5年12月12日に、5年ぶりの剖検等御協力者慰霊祭が、地域医療研修センターで執り行われました。今回は平成30年9月1日から令和5年8月31日の間に当院でお亡くなりなられ、剖検に協力頂いた67名の方々の慰霊祭になります。朝からの雨と平日の午後にも関わらず27名の御遺族にご列席頂きました。黙祷、物故者奉読、祭司奉上のあと、御遺族と病院スタッフの献花が粛々と行われました。最後に八橋院長から剖検協力へのお礼の挨拶があり、閉会しました。

現代医学の発展にとりまして、病理解剖が果たした役割は極めて大きく、その重要性には、計り知れないものがあります。剖検症例をもとに行われるCPC（臨床病理検討会）では、複数の科の臨床医、病理医、医療従事者が一堂に会し、臨床経過で不明であった点を一つ一つ振り返り、真実を徹底的に探求しますが、病院にとって重要な医療の質の検証の場となり、そこで得られる知識は、病気の診断や治療及び予防法の発見に繋がり、将来の医療の発展に必要不可欠な貴



重な財産となります。

死に至っても尚、医療の発展のためという崇高な御配慮のもと、ご自身の尊い御遺体をご提供頂きました御霊に、深い尊敬と感謝の念を禁じ得ません。また御遺族の皆様におかれましては、最愛の肉親を亡くされた深い哀しみの中にもかかわらず、深いご理解を示され献体されることを承諾されました。解剖に深い御理解を頂きました御遺族の皆様の御厚情に対し、厚く御礼申し上げます。慰霊祭に参加し、あらためて剖検の意義、協力頂いた御遺族への感謝、日々の診療への貢献を改めて感じました。剖検が果たす役割を深く理解し、その知識を通じてより質の高い医療を提供できるよう努めてまいります。

TOPICS

APSR 2023でYoung Investigator Award（YIA）受賞

理学療法士　吉永 龍史



写真①

今回、シンガポールで開催されたthe 27th Congress of the Asian Pacific Society of Respirology（アジア太平洋呼吸器学会；APSR 2023）で老年呼吸器学若手研究者（YIA）賞を受賞しました（写真①）。当院の重症患者における高度救命救急センター退室時の握力は歩行自立を予測できるという本研究が評価され、この素晴らしい賞を頂けたことは大変光栄です。臨床データの蓄積は一苦労でしたが、その成果が評価される瞬間を迎えられたことに感謝しています。

学会発表のきっかけは、今年度において日本学術振興会（科研費）で研究費を獲得したことでした。当初、英語に自信がないためポスター発表に応募していましたが、後日結果が届くと口述発表に変更されていました。口述発表はこれまでに経験がなかったものの、結果を前向きに捉えて準備しました。質疑応答は英語でどうにか回答できましたが、英会話の必要性を痛感した学会でした（写真②～④）。こうした学会への挑戦は、私自身が研究者として大きく成長できる機会となりました。その後の授賞式では、まるで日本の結婚式のようなディナーに招待され、食事やショーなどを楽しませて頂きました（写真⑤～⑦）。

最後に、本研究にあたりサポートしてくださったすべての方々に深く感謝申し上げます。また、学会参加に際し、フォローをして頂いたリハビリテーションスタッフの皆様には心よりお礼を申し上げます。


写真⑦：賞状授与


写真②：実際の発表の様子


写真③：学会発表会場


写真④：座長2人と記念撮影


写真⑤：ガラディナーと授賞式


写真⑥：授賞式の様子

TOPICS

令和5年度長崎医療センター忘年会

令和5年度長崎医療センター忘年会を12月8日（金）に開催いたしました。本年度素晴らしい功績を上げた方々への表彰、楽しい余興で、大盛況の忘年会となりました。

学術奨励賞　表彰

受賞者	タイトル
津野﨑　絹代	Comparison of dwell time and complications between peripheral venous catheters and midline catheters in infants weighing ≧ 1500 g at birth. Pediatrics International. 2023;65(1):e15611.（IF：1.4）
福岡　操	Achievement of Target Glycemic Goal with Simple Basal Insulin Regimen in Women with Gestational Diabetes: A Prospective Cohort Study. Journal of Diabetes Research. 2023;2023:9574563.（IF：4.3）

功労賞　表彰

【団体部門】

グループ名	代表受賞者
医療安全管理部チーム	井手　時枝（医療安全管理者） 松内　みゆき（専門職）
看護部教育センターチーム（めぐみの部屋）	斉藤　昌子（副看護師長） 松本　温子（看護師）

【個人部門】

職員名	役職
立花　玲華	看護師








人生100年時代の

予防医療

～あなたらしく生き抜くために～

第6回　高尿酸血症
侮れない尿酸！

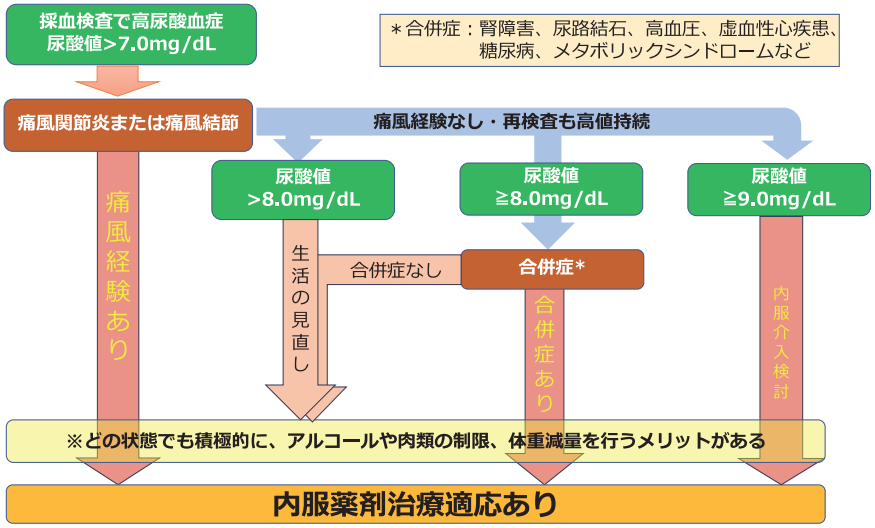
総合診療科　最勝寺 佑介

これまで健診で尿酸値が高いと指摘された方も多いのではないでしょうか。血液中の尿酸値が7.0㎎／㎗を超えると、高尿酸血症と診断されます。高尿酸血症の頻度は全人口の男性で20％、女性で5％と報告されています。特に30歳以上の男性では30％と非常に頻度の高い疾患でもあります。高尿酸血症の合併症と言えば痛風や尿路結石がありますが、どちらも非常に痛みが強く日常生活にも影響を及ぼす他、救急外来を受診する程の症状であることもあるため、予防が非常に重要です。高尿酸血症・痛風の治療ガイドライン第3版より治療指針を図に引用しますので、ご自身の尿酸値を当てはめてみてください。生活指導についてはアルコールや肉類の摂取を控えることや体重を減量することが重要です。薬物治療についてはかかりつけの先生と相談して決めていきましょう。

しかし、もっと重要なことは**高血圧、慢性腎臓病、心血管疾患、インスリン抵抗性症候群**などの疾患と関連があることが指摘されていることです。尿酸値が高い方はこれらの疾患を合併することが多いため、血圧や腎機能、尿検査、心電図検査、コレステロール値、血糖値、ＨｂＡ１ｃなどの検査値についても注意する必要があります。「たかが尿酸値」と考えていると〝痛風〟だけではない〝痛い目〟に遭うかもしれません。

※インスリン抵抗性症候群…血糖値を下げるホルモンであるインスリンが効きにくくなる病気のこと。結果的に糖尿病を発症することもある。





院内さるく

Vol.12 臨床工学室

臨床工学室では院内で使用される生命維持管理装置（人工呼吸器・ECMOなど）や汎用医療機器（輸液ポンプなど）を中心に操作・管理・保守・点検作業を行っています。他にも様々な診療科において診療支援業務も行っています。医学と工学の知識が必要で、最新の技術にも対応していく必要があり、スタッフは少人数ですが自己研鑽を行いながら日々業務遂行しています。12月より運用開始になるロボット手術も診療支援に入ります。



リハビリテーション科 だより

Vol.6

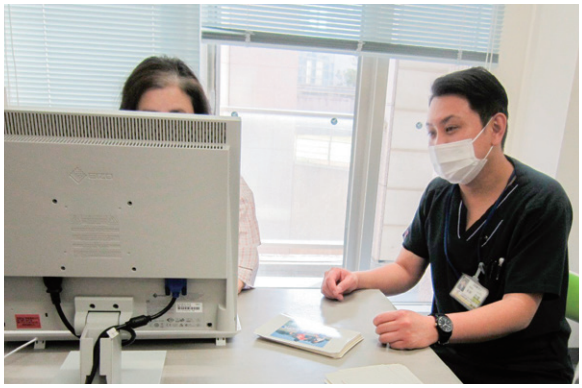
～ ST編 ～

リハビリテーション科には3部門（PT：理学療法士・OT：作業療法士・ST：言語聴覚士）のセラピストが所属しています。その中でも【ST：speech therapist】という職種を紹介させていただきます。

言語聴覚士とは？

ことばによるコミュニケーションには言語・聴覚・発声・構音・認知などの各機能が関係しています。

病気や事故、発達上の問題などでこのような機能が損なわれることがあります。言語聴覚士はことばによるコミュニケーションに問題がある方や同じ身体の器官を使用する摂食・嚥下の問題へも専門的に対応します。このような方々へ専門的サービスを提供し、よりよい生活を構築できるよう支援する専門職です。

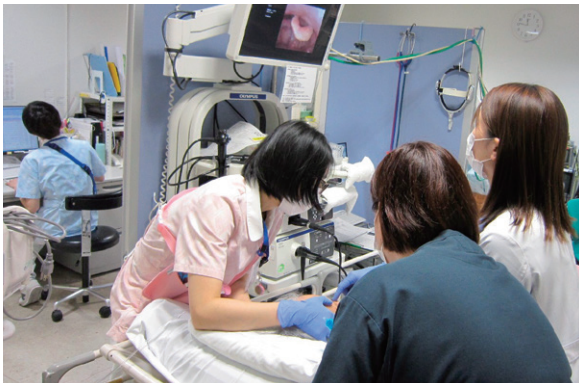


取り組み

当院では２名で、構音障害・嚥下障害・失語症・発声障害などに対して乳児～100歳越えの方まで評価・訓練を行っております。嚥下障害や発声障害に関しては耳鼻咽喉科医師（写真①②）と共に、VE検査（嚥下内視鏡検査）・VF検査（嚥下透視検査）（写真③）・摂食嚥下カンファレンスを行い、経口摂取の安全な姿勢や食物形態を決定するため、日々奮闘しております。



写真①



写真②



写真③

入院中、楽しみといえば食事ではないでしょうか。患者さんに楽しく安全に食事を行っていただくためにも頑張っていきたいと思っております。

院長コラム

国立病院機構長崎医療センター
院長　八橋 弘

Vol.7　病院を彩るのは看護師



私が研修医2年目の時の話です。私は長崎市民病院（今の長崎みなとメディカルセンター）に赴任した初日に吐血で緊急入院となった食道静脈瘤破裂の患者さんの主治医となりました。内視鏡による止血方法が開発される前で、治療はバルーンを膨らませて食道を圧迫して自然止血を待つという方法しかありませんでした。手術適応もなく、その患者さんは肝性昏睡に陥りながら入院5日後に亡くなられました。その患者さんの担当看護師Yさんは卒後3年目の新人でしたが、私よりも臨床経験が豊富でした。私は輸血製剤を次々につなぎながら、Yさんにいろいろと相談しました。Yさんは患者さんの立場で物事を考え献身的な看護をされる優秀な看護師でした。看護学校はどこか尋ねたところ「国立長崎中央病院附属看護学校」と言われました。「国立長崎中央病院？」私は、その時までどのような病院なのか知りませんでした。時々、Yさんは看護学校で学んだ時のことを楽しそうに話されました。

私が当院に肝臓内科医として赴任してからの話です。当時の肝臓病棟は「中病棟」と呼ばれ、病院本体建物から独立した50床の平屋の病棟でした。夜11時過ぎ、病院官舎に住んでいた私に中病棟から電話がかかってきました。夜勤看護師Hさんからでした。「先生の患者のMさん、様子がいつもと違うような気がします、気になるので診察してください」私は官舎から出向いて診察しました。血圧も脈も呼吸回数も顔色も意識も変化なく、Mさんにも「気分はどうですか」と尋ねたところ「変わりありません」との返事でした。しかし、少し肩で息をしていることに私もHさんも気がつきました。「たしかにいつもとは違う」私は酸素1L投与の指示を出しました。すでにDNARを取得していた患者さんでしたが、その翌日の昼前に亡くなられました。急変の12時間前にその予兆を感じ主治医の私に知らせてくれたHさん、とても優秀な看護師でした。

最近の話です。在院日数が短い今の忙しい病棟勤務の中においても、看護師が家族背景も含めて詳細に患者さんのことを把握していることに感銘した活水看護学部の学生から、「どうしてここまで把握できるのか、看護師に改めて話を聞きたい、インタビューをしたい」という申し込みがありました。看護師にも感心しましたが、それに気が付き、そのアクションを起こした看護学生にも感心しました。私は快く許可しました。

この病院の魅力は看護師にあると思っています。看護記録の中には医師から告知されたあとに看護師にだけ打ち明けた患者さんの思いが書かれてあります。看護師は、患者さんの最も近くにいて、患者さんの目線で物事を考え、患者さんの気持ちを最も良く理解する、患者さんにとって一番の味方です。「患者とともに泣き、患者とともに喜ぶ、病院のカラーを決めるのは看護師、病院を彩るのは看護師」と私は常々思っています。

外来診療担当医一覧表

受付時間　8時30分～11時30分（ただし急患はその限りではありません。）

（★は新患対応）令和6年1月1日現在

		月	火	水	木	金
総合診療科		当番制	当番制	当番制	当番制	当番制
肝臓内科		★長岡　進矢 ★末廣　智之 ★松本　耕輔 ★山﨑　一美	★佐伯　哲 ★末廣　智之 ★釘山　有希	八橋　弘 ★小森　敦正 ★山﨑　一美	★長岡　進矢 ★本吉　康英 ★小森　敦正	★本吉　康英 ★釘山　有希
消化管内科		★西山　仁	★後藤　高介 ★三根　祥一郎	午前　★西山　仁 午後　★中島　悠史郎 （炎症性腸疾患 専門外来）		★中島　悠史郎 （炎症性腸疾患　専門外来） ★今村　祥子
内分泌・代謝内科		★安井　順一 ★柿田　実紀 明島　淳也	★明島　淳也 安井　順一 柿田　実紀	★安井　順一 明島　淳也	★明島　淳也 安井　順一	
腎臓内科		★岡　哲 山下　由恵		★荒木　慎平 岡　哲	山下　由恵	★山下　由恵 荒木　慎平
循環器内科	午前	★於久　幸治	★福田　侑甫	森　彩	★松尾　崇史 ★石松　卓（不整脈）	★深江　貴芸
	午後	★鶴川　晃二郎	★石松　卓（不整脈） ★福田　侑甫	於久　幸治	石松　卓（不整脈）	
呼吸器内科		★原　敦子 池田　喬哉	★峯　慧輔	近藤　晃 ★池田　喬哉	★瀬戸口　大地	★近藤　晃 原　敦子
血液内科		小林　裕児 ★榊　智佳	★今泉　芳孝	吉田　真一郎	今泉　芳孝 ★小林　裕児	午前　吉田　真一郎 午後　★西村　紗央里
脳神経内科（神経内科）		★岩永　洋 佐藤　和明（てんかん）	★忽那　史也	★足利　裕哉 徳田　昌紘（再診のみ）	★徳田　昌紘	★佐藤　和明
膠原病・リウマチ内科		★岡田　覚丈		★岩永　希	★岩永　希	午後　★岡田　覚丈
小児科	午前	★本田　涼子（神経） ★山田　洸夢（第2・3・4） （心臓・一般） ★西口　奈菜子（神経・一般） 桑原　義典（第1）（心臓）	★安　忠輝（神経） ★石橋　洋子（一般・心臓） ★濱口　陽（新生児・乳児） ★石川　太郎（一般） 田中　茂樹（神経） 本村　秀樹（心臓） ★石橋　信弘（心臓・一般）	★青木　幹弘（新生児・乳児） ★本田　涼子（神経） ★和泉　啓（内分泌） ★山田　洸夢（心臓・一般）	★西口　亮（第1・3・5） （新生児・乳児） ★石橋　洋子（心臓・一般） ★石川　太郎（一般） ★池田　憲呼（神経・一般）	★青木　幹弘（新生児・乳児） ★山口　倫人（一般） 本村　秀樹（心臓） 安　忠輝（神経） ★白石　亮（新生児・乳児） ★石橋　信弘（心臓・一般）
	午後	★小児外科（第3週） 本村　秀樹（心臓） 発達外来	★本村　秀樹（心臓） 安　忠輝（神経）	一ヶ月健診 ★大学医・当番医（内分泌）	発達外来	シナジス外来
精神科		★倉田　青弥 蓬莱　彰士	★倉田　青弥 蓬莱　彰士 志方　有莉	★蓬莱　彰士	★蓬莱　彰士 志方　有莉 倉田　青弥	★志方　有莉 倉田　青弥
皮膚科	①外来紹介・新患	★石川　博士	★里見　直義	★石川　博士	★里見　直義	
	②旧患	里見　直義	石川　博士		石川　博士	里見　直義
	③入院中の紹介			里見　直義		石川　博士
外科		★黒木　保（胆・膵） 釘山　統太 （胆・膵・一般外科）	★米田　晃 （食道・胃・一般外科） ★福井　彩恵子（一般外科） ★南　恵樹（乳腺・内分泌外科） ★杉山　望（乳腺・内分泌外科）	★北里　周（肝・一般外科）	★米田　晃 （食道・胃・一般外科） ★南　恵樹（乳腺・内分泌外科） ★杉山　望（乳腺・内分泌外科）	★竹下　浩明 （大腸・肛門・一般外科） 藤岡　ひかる （肝・胆・膵・消化器）
呼吸器外科				★田川　努 ★朝重　耕一		
緩和ケア科			濵脇　正好	濵脇　正好	濵脇　正好	
心臓血管外科				★有吉　毅子男 ★嶋田　隆志		★有吉　毅子男 ★嶋田　隆志 濵脇　正好（再来のみ）
脳神経外科		★小野　智憲 ★原口　渉	★案田　岳夫	★定方　英作	午前　原口　渉 午後　内田　大貴	★小野　智憲 ★吉田　道春
整形外科		★宮本　俊之 山口　圭太	向井　順哉（★第1・3・5） （再 第2・4） 大場　陽介（★第2・4） （再 第1・3・5）	★大場　陽介 熊谷　謙治	★花谷　拓哉 向井　順哉	★森　圭介 向井　順哉（第1・3・5） 山口　圭太（第2・4）
リハビリテーション科		森　圭介	大場　陽介	向井　順哉	花谷　拓哉	宮本　俊之
形成外科		★藤岡　正樹 ★古賀　一史	★出光　茉莉江	★福井　季代子	★藤岡　正樹 ★出光または古賀	★福井　季代子 ★出光または古賀
産婦人科		★古賀　恵 ★福田　雅史	★安日　一郎 ★山下　洋	★菅　幸恵 ★杉見　創 産褥1ヶ月検診（午後）	★五十川　智司 ★山口　純子	★福田　雅史 ★レジデント（安日　一郎）
泌尿器科		★大仁田　亨 錦戸　雅春	松屋　福蔵	★錦戸　雅春	★岩田　隆寿	★大仁田　亨 ★柿田　聖大
移植後フォローアップ外来		錦戸　雅春	松屋　福蔵	錦戸　雅春	岩田　隆寿	大仁田　亨
耳鼻咽喉科		★田中　藤信 ★吉田　晴郎 ★二宮　直樹 沖田　奈菜	★森　彩加	★田中　藤信 ★吉田　晴郎 ★二宮　直樹	★吉田　晴郎 沖田　奈菜	★田中　藤信 ★森　彩加
眼科		★前川　有紀 ★佐藤　健人 ★中尾　志郎 ★大槻　早紀 ★斉藤　淳哉	★前川　有紀 ★佐藤　健人 ★中尾　志郎 ★大槻　早紀 ★斉藤　淳哉	午後　中尾　志郎	★前川　有紀 ★佐藤　健人 ★中尾　志郎 ★大槻　早紀 ★斉藤　淳哉	★前川　有紀 ★佐藤　健人 ★中尾　志郎 ★大槻　早紀 ★斉藤　淳哉
放射線科（治療）			★中村　太祐 ★武田　達哉			★中村　太祐 ★武田　達哉

※紹介状なしで受診を希望される患者さんにつきましては、診察料とは別に、選定療養費として7,700円をご負担いただきます。
ただし、紹介状がある場合は選定療養費（7,700円）の負担はありません。「かかりつけ医」等からの紹介状をお持ちいただきますようお願いいたします。

理　念

高い水準の知識と技術を培い
さわやかな笑顔と真心で
患者さん一人一人の人格を尊重し
高度医療の提供をめざす

長崎医療センターの使命

長崎医療センターは以下の活動を誠実に行い、地域拠点病院として住民の皆さんと医療機関からの信頼を得ることを使命としています。

- 安全で質の高い医療を提供する
- 救急医療の最後の砦となる
- 地域の医療機関、行政と密接に連携する
- すべての医療人と学生に魅力的な教育研修を提供する
- 臨床研究を推進し、国際医療協力に貢献する

長崎医療センターNEWS
NAGASAKI MEDICAL CENTER NEWS
https://nagasaki-mc.hosp.go.jp/
VOL.419